



# JSQCニュース

No.428

CONTENTS

- 1-トピックス 規格講習会でTQMを目いっぱい学ぼう！
- 2-私の提言 先人の知恵を学ぶ仕組みの再構築
- 3-ルポルターージュ JSQC規格「日常管理の指針」講習会ルポ
- 3-ルポルターージュ 第149回クオリティークルボ
- 3-ルポルターージュ 第424回事業所見学会ルポ
- 4-行事案内 / 教員公募

発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## 規格講習会でTQMを目いっぱい学ぼう！

JSQC標準委員会 委員長 山本 渉

当学会で好評の「規格講習会」をご存知でしょうか？JSQC規格を標準委員会の講師が分かりやすく解説します。TQMに興味のある方には特におすすめで受講するとともに規格冊子が手に入る大変お得な内容です。ぜひこの機会に、規格の本質に触れてみてください。

### JSQC規格とは？

TQM（総合的品質管理：Total Quality Management）は、顧客ニーズと技術（シーズ）を結びつけて価値を創造し、変化に対応できる組織能力を獲得するための手法をパッケージ化したものです。世界中の幅広い産業で成果をあげていますが、体系的な資料が少ないため、習得が難しいという課題がありました。

この課題を解決するため、日本品質管理学会はTQMを体系化し「活動要素」（日常管理、方針管理、小集団活動など）について、役割を図式化し、推奨事項を「JSQC規格」として制定しました。JISやISOなどの国内外の標準規格へ反映させるとともに、海外拠点での活用に向けて英訳も進めています。

JSQC規格	
JSQC-Std 00-001:2011	品質管理用語 (2018年、2023年改定)
JSQC-Std 32-001:2013	日常管理の指針 (2025年改定予定)
JSQC-Std 31-001:2015	小集団改善活動の指針
JSQC-Std 21-001:2015	プロセス保証の指針
JSQC-Std 89-001:2016	公的統計調査のプロセス — 指針と要求事項
JSQC-Std 33-001:2016	方針管理の指針
JSQC-Std 41-001:2017	品質管理教育の指針
JSQC-Std 22-001:2019	新製品・新サービス 開発管理の指針
JSQC-Std 11-001:2022	TQMの指針
JSQC-TR 12-001:2023	テクニカルレポート 品質不正防止 根本原因分析(RCA) の指針
JSQC-Std 62-001:2024	注) 英訳、JIS化しているものもある

現在も「標準委員会」が中心となり、規格の新規発行や改定に取り組んでいます。

### 規格講習会

年に3回程度開催しています。「原案作成委員会」のメンバーが講師を務め、規格の背景から各章の要点までを、初心者の方にも分かりやすく紐解きます。

時間は午後の4時間程度で、全国からアクセス可能なオンライン開催が中心です。規格の大きな節目（発行・改定時）には東高円寺で対面開催することもあります。パネルディスカッションも行い、作成委員と直接意見交換ができる貴重な機会となっています。

#### ▼2月実施の対面開催の募集案内



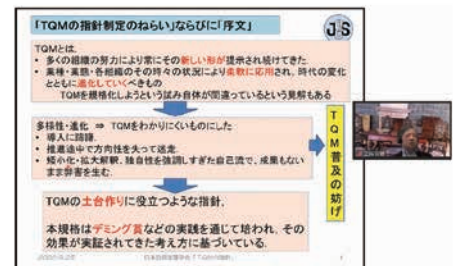
### 参加するメリットは？

一つの規格が誕生するまでには徹底した議論を行います。

発行・改定時にはまず「原案作成委員会」が発足し、産学の専門家が1年以上かけて議論を戦わせ、素案を作り上げます。そこからさらに、あらゆる分野の有識者が集まる「審議委員会」で内容を練り上げ、一般からのパブリックコメントも反映させていきます。こうした幾重ものプロセスとブラッシュアップを経て、ようやく皆様のお手元に届く規格が完成します。

### メリット1. 規格の行間を理解できる

規格の背後には、長年蓄積された産学の知見が数多く存在します。講習会では、規格の文言解説に留まらず、その背景にある「考え方」や「ねらい」といった「行間」も解説します。実務経験豊富な講師陣が、現場での事例や制定時の議論を交えて解説するため、より実践的な知識を習得いただけます。講師ごとの独自の切り口により、多面的な視点を得られるのが本講習会の特徴です。ぜひ研鑽の場としてご利用ください。



### メリット2. 充実の質疑応答タイム

講習会の締めくくりには、充実した質疑応答の時間を設けています。規格を読み込む中で感じた疑問を是非ご質問ください。

皆様からの本音の問いに対し、講師も自身の知識と経験のすべてを駆使して、正面からお答えします。この双方向の「対話の場」を共有することで生まれる「気づき」や「共感」こそが、本講習会の真髄であり、「場」としての学会の醍醐味です。実務における品質管理の引き出しを増やす貴重な体験となるはず。ご参加お待ちしております！

## ● 私の提言 ●

## 先人の知恵を学ぶ仕組みの再構築

元・マツダ(株) 武重 伸秀

日本の企業や学術団体、自治体といった組織は、第二次世界大戦後、進化を続けながら多大なる社会貢献を果たしてきました。しかし、1990年代のバブル崩壊を境にその進化のスピードは鈍り、現在の仕事の生産性は先進国の中でも下位に位置しています。この停滞の要因を探るには、かつての日本を支えた仕組みの本質を問い直す必要があります。

日本の高度経済成長を支えたのは、戦後米国から流入した統計的品質管理に、“人が品質を作る”という日本独自の哲学を融合させた品質管理であり、疑う余地はありません。この根幹をなすのは、“良い仕組みを人の改善力で回す”という組織の本質を捉えた考え

方であり、その具体的な実践方法がPDCAサイクルです。PDCAとは、物事を計画し、実行し、その結果を振り返って次に活かすという、人や組織の行動原理そのものを表現したものです。そして、計画の段階で過去の成功や失敗から導き出された先人の知恵を活かすことは、成長のために欠かせない前提条件です。ドイツの政治家ビスマルクが説いたように、“賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ”ものですが、バブル崩壊以降の日本においては、多くの経営者が先人の知恵を学ぶことを疎かにし、個人の経験だけに頼って仕事をしているように感じております。

歴史から学ぶ姿勢を欠いたままPDCAを回しても、真の成長は望めま

せん。成長が止まれば組織は現状を維持することに忙殺され、他社の進化に追いつけず業績が悪化するという負のスパイラルに陥ってしまいます。私は2000年頃からシックスシグマをはじめとする様々な管理技術を学んできましたが、世界最高峰は今も、そして今後も日本の品質管理であり続けると確信しています。それは、社会に属する人や組織の本質を捉えているためです。しかし、残念ながらバブル崩壊以降、品質管理の講座は劣化を続け、その結果、多くの組織がその価値を十分に引き出せていないのが実状です。

現在はコンピュータやITの進化によるCAEやAIの進化により、仕事の環境は劇的に変化しています。こうした最新技術を有効活用するためにも、今こそ仕事の進め方に関する先人の知恵である品質管理を再整理し、学びの仕組みを再構築することが、日本社会の再生に向けた重要な鍵となると考えます。

JSQC規格  
講習会  
レポート日常管理の指針  
—日常管理の本質を学ぶ—

「JSQC規格 日常管理の指針—日常管理の本質を学ぶ」の講習会が、2026年2月27日(金)に日科技連東高円寺ビルにおいて対面で開催された。参加者は29名であった。対象規格は2013年に発行された同規格の改正版である。改正についての経緯と主な改正内容は、JSQCニュース No.423に掲載された、原案作成委員会委員長の安藤之裕氏による解説を参照されたい。

講習会の前半では、山本渉氏から制定のねらい、安藤之裕氏から日常管理の基本、永原賢造氏から日常管理の進め方(標準化)、中條武志氏から日常管理の進め方(異常の検出と処置)、福丸典芳氏から上位管理者の役割と部門別の日常管理、新倉健一氏から日常管理の推進について、それぞれの重要ポイントと改正部分の解説があった。

後半には、前半の講師陣にJSQC会長の山田秀氏が加わり、中條氏の進行役のもと質疑応答の場が設けら

れた。

フロアからは、異常の共有化の実施の難しさ、デジタル化に向けた日常管理の教育、標準化の細かさの程度、品質目標に関してISO 9001との関係、エラープルーフ化のポイント、品質管理活動の推進のポイント、管理レベルの評価スコアの考え方、方針管理と日常管理の区分など、多岐にわたる質問が寄せられた。

全社的な活動を進める上において、日常管理の重要性は言うまでもない。今回の講習会での講師陣からの解説と質疑応答を通じて、ボトムアップによる意識改革につながる、それぞれの職場に適したしくみづくりや職場の風土づくりには、上位管理者の役割が重要であり、そのための見える化であり、デジタル化であることを改めて感じた。

最後に、山田会長から、学会の使命は、情報を共有する場を提供し、その中から新しいものを創っていくことである、との締めのおあいさつがあった。今回の講習会は、参加者数からみて大規模な場ではなかったものの、対面開催による効果も手伝い、講師陣とフロア、および参加者間での有意義な情報共有の場となった。

仁科 健(愛知工業大学)

## 第149回 クオリティーク ルポ

### 品質マネジメントの AI活用に倫理のススメ

AIの活用が加速している。従来の品質管理では製品の適合性が中心であり、AI活用の倫理やリスクは対象範囲外という認識もあった。しかし、AIの普及に伴いISO 9001:2026でも「倫理的視座」の観点が含まれる可能性が高い。このクオリティークは、品質管理とAIリスク管理との関連に重点を置き、現場や商品開発などでのAI活用、さらに利用者としてAIを使用した製品・サービスを運用する場面など、幅広い範囲で論点を整理できるものであった。

AIの活用は、開発や研究用途のみならず、例えば、従来は人間の目と頭で行っていた現場の品質監査なども、AIを使うと効率的なチェックができる利点もある。（もちろん最後は人間が判断しなければならない。）

これに伴い、AI活用によるインシデントを考慮する必要があり、TQMやQMSもAIの進化の影響を受ける。製品開発時の機能安全面でのリスク低減に加え、利活

用時も含めた多様な場面で、人間の尊厳や精神の負担へのリスクを考えなければならなくなった。

AI倫理はこれからの品質の根幹に関わるようになる。社会的信頼性を満たすために品質の世界もAIリスク管理が重要になり、AI利活用に対するガバナンス監査も必要になってくる。政府によるAI事業者ガイドライン（2024）の活用や、ELSI（Ethical Legal & Social Issues）の概念の浸透も進めるべきである。

最後に、クオリティークで初の試みとしてZoom上でのグループ演習を行い、議論と理解を深めた。まず、社員の健康データを24時間取得してAIで健康への注意や成長意欲促進の助言を行うという架空のサービスを想定した。次に、数人のグループに分かれ、このサービスのメリットと「モヤモヤ」を言語化してリスクを抽出し、リスク分類マップに配置しながら、運用者と利用者のリスクが一致しているか、対策が実施され、双方が納得できるものになっているかを検討した。

問題提起、グループ討論ともに、AIと品質管理に関する方向性が整理でき、非常に有意義な回であった。

小川 文子（オークマ㈱）

## 第424回 事業所見学会 ルポ

### カゴメ㈱ 上野工場・カゴメ記念館

2026年4月2日、カゴメ株式会社 上野工場およびカゴメ記念館において、「現場で学ぶ品質マネジメント～カゴメにおける品質づくりの思想と醸熟<sup>®</sup>ソース製造の実践～」をテーマとした事業所見学会が開催され、18名が参加しました。

カゴメ創業の地に建つカゴメ記念館では、西洋野菜（トマトなど）栽培から事業を開始した創業期の取り組みや、商品開発の変遷、食を通じた社会的価値の創出に向けた同社の歩みについて、実物資料や展示を通じて見学しました。長年にわたる商品改良や技術開発を重ね、「よい原料」と「よい技術」の最適な組み合わせによって品質を高め続けてきた同社の歴史にも触れる機会となりました。

続いて、隣接する上野工場において、カゴメの主力製品の1つである醸熟<sup>®</sup>ソースの製造工程を見学しまし

た。見学通路からは、ソースの充填工程や製品ラベルの検査工程などを間近に見ることができ、その他の工程についても映像やパネル展示を用いた分かりやすい説明をいただきました。

「畑は第一の工場」という考えのもと、原材料の選定から製造、検査に至るまで、各工程において「品質は工程でつくり込む」という考え方が一貫していること、また、味や香りといった味覚に関する評価については、五味（甘味、酸味、塩味、苦味、うま味）を識別できる人材を育成し、品質管理を行っていることなど、多くの学びを得ることができました。

企業理念に掲げられている「感謝・自然・開かれた企業」が示すとおり、品質とは単に規格を満たすことではなく、お客様や社会に喜んでいただける価値づくりそのものであるということを改めて認識する機会となりました。

最後に、見学会へご協力いただいたカゴメ株式会社名古屋支店、上野工場の皆さまに心より感謝申し上げます。

荒井 崇（トヨタ車体㈱）

## 行事案内

## ●第140回研究発表会（本部）

日 時：2026年5月23日(土)10:00～19:15

会 場：日科技連・東高円寺ビル

プログラム：

10:05～10:55 チュートリアルセッションA

「みんなの科学的な問題解決 一問  
題解決を生きる力に―」

熊井 秀俊 氏（元・リコー）

11:00～11:50 チュートリアルセッションB

「方針管理導入・推進のキーポ  
イント」

光藤 義郎 氏（日本科学技術連盟）

13:00～17:30 研究発表会（4会場）

17:40～19:15 情報交換会 優秀発表表彰

申込締切：2026年5月15日(金)

詳細・申込：https://jsqc.org/140technical/

## ●第457回事業所見学会（西日本）

テーマ：「多くの人に福を広める」

～オタフクソースの取組について

日 時：2026年5月27日(水)13:00～16:30

見学先：オタフクソース(株) 本社工場／

Wood Egg お好み焼館

（広島県広島市）

定 員：30名

申込締切：2026年5月20日(水)

詳細・申込：https://jsqc.org/457visit/

## ●第159回講演会（東日本）

テーマ：生成AIを活用した品質保証業務  
改善セミナー

ゲスト：村山 浩一 氏（イーコンプライアンス）

日 時：2026年6月2日(火)14:00～17:00

会 場：オンライン(Zoomミーティング)

詳細・申込：https://jsqc.org/159lecture/

## ●第152回QCサロン（関西）

テーマ：機械システムの設計品質と現場力

ゲスト：青木 聡明 氏（技術士（機械））

日 時：2026年6月2日(火)19:00～20:30

会 場：オンライン(Zoomミーティング)

詳細・申込：https://jsqc.org/152qcsalon/

## ●第459回事業所見学会（東日本）

テーマ：身近な食品「プレミックス粉」の  
品質を見て・知って・味わう― 最  
新鋭プレミックス粉工場の製造工  
程見学とホットケーキ試食を通じて、

コンセプトと食感の違いを体感―

日 時：2026年6月15日(月)13:00～16:40

見学先：昭和産業(株)船橋工場（千葉県船橋市）

定 員：20名

申込締切：2026年6月8日(月)

詳細・申込：https://jsqc.org/459visit/

## ●第158回講演会（関西）

テーマ：人の成長の質を上げるAIとの上  
手な付き合い方

日 時：2026年7月27日(月)13:30～16:45

会 場：日科技連 大阪事務所内 研修室

およびオンライン（Zoomミーティング）

プログラム：

講演(1)製造業におけるAI活用の現場と品  
質課題への応用

奥山 博史 氏

（ヤンマーホールディングス）

講演(2)人工知能の基礎と未来 ― 技術・

人間・社会の視点から

藤田 大輔 氏（奈良県立大学）

詳細・申込：https://jsqc.org/158lecture/

## ●第141回研究発表会（中部）発表募集

日 程：2026年8月26日(水)

会 場：名古屋工業大学

(1)申込期限

発表申込締切：5月29日(金)

予稿原稿締切：7月17日(金)必着

参加申込締切：8月19日(水)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

https://jsqc.org/141technical/

(3)参加申込

7月上旬にホームページにてご案内します

## ●第142回研究発表会（関西）発表募集

日 程：2026年9月17日(木)

会 場：関西学院大学 大阪梅田キャンパス

(1)申込期限

発表申込締切：8月3日(月)

予稿原稿締切：9月3日(木)必着

参加申込締切：9月15日(火)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

https://jsqc.org/142technical\_cfp/

(3)参加申込

https://jsqc.org/142technical/

## ●第23回ヤング・サマー・セミナー

日 程：2026年8月5日(水)～6日(木)

会 場：デンソーグローバル研修センター

「AQUAWINGS」(静岡県浜松市)

参加資格：原則35才以下

詳細・申込：https://jsqc.org/23yss/

事務局

JSQCホームページ：https://jsqc.org/

## 教員公募

## 早稲田大学理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科

募集人員 教授、准教授、専任講師、または、教授（テニュアトラック）、准教授（  
テニュアトラック）、講師（テニュアトラック）1名

所 属 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科

／創造理工学研究科 経営システム工学専攻

研究分野 人間工学、ヒューマンファクターズ、安全マネジメントなど

担当科目 人間工学概論、安全人間工学、人間生活工学、経営システム工学に関わる  
実験・演習科目など

着任時期 2027年4月1日、またはそれ以降のできるだけ早い時期

応募締切 2026年6月30日(火)必着

詳 細 jREC-IN Portal

https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?id=D126040243

## 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 経営デザイン専攻

募集人員 教授（任期付）、または准教授（任期付）1名

所 属 早稲田大学大学院 創造理工学研究科 経営デザイン専攻

専門分野 経営デザイン分野の次の5領域のいずれかで教育・研究ができること。

①マーケット・顧客開発②製品・サービス企画・開発③サプライチェー  
ンマネジメント／ロジスティクスマネジメント④生産マネジメント  
（調達・製造・販売）⑤事業経営

着任時期 2027年4月1日、またはそれ以降のできるだけ早い時期

応募締切 2026年6月30日(火)必着

詳 細 jREC-IN Portal

https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?id=D126031835